

### 卒業記念文集「仲間」に添えて

卒業記念文集が出来上がりました。あざやかな黄色のとってもかわいい表紙です。中を開いてみると、ひとりひとりの手書きの文字が並んでいて、とてもすてきな文集です。ただひとつ、残念に思えるのは、今年の文集には、編集後記(あとがき)がないということです。2年前の文集にぼくが書いた文章を、「仲間」に添えてお届けします。

#### 編集後記

卒業文集「仲間」、いかがだったでしょうか。友だちの書いた作文のひとつひとつを読んでいると、過ぎ去った6年間の日々がさうのうのこのように思い出されてくることでしょう。

じっとしていられないほどうれしかった日、悲しみの涙にくれた日、ふと友の顔を思い出した時、この一冊の文集を取り出して読んでごらん下さい。なつかしい級友が、担任の先生が、あなたに語りかけてくれるでしょう。

過去はどんなにすばらしくても思い出にすぎません。生きる「糧(かま)」にはなっても、生きる「目的」にはなりません。若いあなたは、「あの頃は良かった」などと決して思わないで下さい。成長がないからです。絶えず今日よりも一歩大きな明日を見つめて生きてください。

旧友は、いつもあなたのとまりにいてあなたを見つめていることでしょう。時にやさしく、時にきびしくあなたをばげましながら、この文集があなたにとってそんな「旧友」になってくれることを願って止みません。  
今旅立つあなたに-----

### 再び「ばんざいじっさま」の授業を終えて

最後の最後の授業を終えて、少しばかり思うことを書いておきたいと思います。

岡田君の文章は、「ばんざいじっさま」の話を自分の方へ引き寄せてくれました。多くのが、自分は村人だと書きました。(それらにまじって、「自分は中国人だ」と書いた人がいたという事実を重く受け止めてほしいと思います。)その中に、ぼくの心をはなれないものがいくつもありました。紹介します。

- ・私かばんざいじっさまの中に出てくるとすれば、村人です。理由は、私がいじめられる人を見ても、知らないふりをするからです。ここでは、やっぱり知らないふりをした方がとくだからです。かまったりすれば、まわりからいろいろ言われたりして、私には「えんたけど、知らんふりをすれば」、それはそれで終わってしまうからです。----- たいせこから逃げるのが精一杯なのです。
- ・そして、そんな行動をしたあとには、こうかえします。いつも、私はきつと村人です。なぜなら岡田君と同じことをしたことが

何度もあるからです。友だちがいじめられているのに注意することも助けすることもできない。自分でもなげないし、くやしかったです。もし自分が注意すれば、またきつといじめられると思ったからです。私もあの村人をせめました。悪い人たかだと思いましたが、でも、今よく考えてみると、村人もつらく、悲しかったんだろうと思います。きつと村人は自分を守るのに一生けん命だったんだろうと思います。

・私も村人でした。今もそうだと思います。時々思うけど、いじめている人は、したがえている友だちはいやいやしてること知ってるような気がします。そして、さくしかつてくれる(自分のために思い)友だちを心のどこかでさびしくまていると思います。心と体をうまくあつかえない人はいるんじゃないかって思います。

ぼくは、あまりにも深いところであえず、苦しんでいるかまの姿に、心が痛いです。授業が、それ以上に、もの1という集団が、これで終わるのかと思うと残念です。今は、こう言うしかありません。それで、苦しみなから、後悔しなから、村人たちは結果的に戦争に協力したのだと。さねとうさんの言う「勇気」がほしいです。何として「勇気」を持ちたいです。「差別」にも「戦争」にも手をかしたくありませんから。

### 卒業製作 校歌のうき周りを、完成する

卒業製作のワクが来ました。さのうの夕方、みんなが帰ってから先生ら4人でボンドではりつけました。7時30分すぎ、やっと完成。今日、もう一度ニスをぬります。そして、明日中に業者の人が玄関にとりつけて下さいます。20日の朝、是非見て下さい。家の人にも式に来たういせに見てもらって下さい。すごくいい作品になりました。

### 3月27日(木)「日刊6の1」を製本します

3月27日の午前中、10時~12時の間に丹小6の1教室へ来て下さい。「日刊6の1」と「ばんざいじっさま」に表紙をつけて、とじます。ささやかながら、卒業前10日間の記録として残したいと思います。なあ、27日、都合の悪い時は、4月になって1学期がはじまってから来て下さい。

### さんざんだった17日・・・

屋上で給食を食べたら、強い風でゴミがとんで、ケーキなんかまっ黒。1分間スレーチをすれば、テープレコーダがこわれて、録音できず。まったく、さんざんだった17日……。それ水もまたいい思い出になるのかしらね。

あとの予定  
1 ぼくのぼなし  
2 卒業式の練習(4年) ↑ 時間割の順番が変わる可能性あり、期日が10日ごろになるかもしれません。  
3 卒業式の練習(全校) ↓  
編集部に手紙が来ないと言って、編集部がはやい。ヒラ社長  
また、あした...





日刊6の1 No.9の3 これが最後の「みなし」になるのかと思うと、ほくの口も重いです。

で少しいたかっただけでも、そのかなしさをそのときなみたにだしてない。いつも病院でかなしさをだしてきつていた。これは、2年前の6年生が卒業前に書いた文章です。ほくは、このクラスのなかまの中にも、これと同じ思いをしていた人かいることを知っています。受験すること、願書を出すことが、なにかかっこと、名おなごのように語られる校區の中で、こんな思いをしている人がいるのです。この人の悲しみ、なみたを一本たかまとうてくれるのしょう。●中へ行くためにまじめに勉強してきた人が、なぜこんな思いをしなければならぬのしょう。今の社会では、受験が悪いこととは言えません。けれど、自分のために一生けん命になることが、他の人にこんな思いをさせているのだということは知っておいてほしいのです。この2年間、なかまの思いにゆせ、なかまとともに生きる生き方を、自分の生き方としてつらぬいてほしいという願いは、ついに願いのままで終わってしまいました。それぞ水の中学校には、また新しいクラスができます。新しい人との出会いがそこには待っています。その新しいクラスで、ともに語り、ともに生きていくことのできるなかまをつくってほしいと思います。みなさんが、それぞれの場所で、その先陣に立って生きていってくださる姿をほくは見守りたいと思っています。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

日刊6の1 No.9の4 ジョーンズ、お子して4枚め、われながらうら書かなあも感心しとります。

なかよし学級の先生が、みんなの学級に勉強を教えに来てくれるということはありません。そんな中でこそ、みんなの力がほしいのです。どうか、いつまでも森本さんというしよに生きるなかまであって下さい。どうか、勉強がわからなくて困っている人を支えきれぬなかまであって下さい。ほくの願いです。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

あすの式を終えるといよいよ卒業です。どうか、どんな時でも自分をしっかりと見つめられる人であって下さい。自分が見える人には、他人も見えてきます。そこから、何をすればよいかという課題も見えてきます。みなさんの成長と活躍を、心から期待します。

1分間スピーチ無事終了

テープレコーダの故障でやり直しになった1分間スピーチ、今度は無事に終わりました。何年か後の同窓の集まりの中で聞くのが楽しみです。おの身は「---」などと言いつながら、着る組んで、盃をかたづけしようや。

言うときけいな、体重測定の時、目の色が変わってへんど、ささるだけ目せらしとんのに。それから、勝舟先生のことば談話じゃ、別に言われてもええけど、卒業製作ごめんね

アルバムを別にくださるにはきつと...

学級全体の高まりまではいかなかったけど、1学期、2学期の算数の勉強はよかったと思います。(3学期がよくなかったのは、きっと受験のせいでしょうね。)あはは、みんなだからやりきれたのだと思います。あの学習の中に学級ことの本来の意味があったのだと思うし、それがこれからのみなさんの力になると信じています。ああした勉強の仕方をしたともそのまのまっかけは、希望学級へ勉強をしに行っていた森本さん、米川さんが、みんなと一しょに勉強することになって、脇田先生がほくたちのクラスに来て下さるようになったからでした。米川さんは5年生の1年間だけだったけど、森本さんは長い間、希望学級へ行っていました。この1年間、すべての時間をみんなといっしょにすごしてみ、家の人や先生たちも、もちろんほく自身も感じていることがあります。それは、森本さんが人間的にとても成長したということです。ところで、先日、●中へなかよし学級、(●の希望学級にあたるもの)を見せてもらいに行きました。とても楽しく勉強している様子が見られたのだけど、●いと決定的に違うところがあります。それは、朝から下校までのすべての時間をなかよし学級で生活しているということです。森本さんは●中へ行くのです。みんなと同じふうな学級に入ります。それは、ほくの願ひでもあるし、それ以上に家の人願ひです。みんなといっしょに生活する中でこそ人間は成長するのだ。国語や算数の勉強は、みんなと生活が切りはなされた所では考えられぬのだという、この1年間の結果からの結論なのです。ところが、●中では

また遊びに来て下さい

卒業式後のほくの予定です

- 3月21日(金) 家で中学校へ送る書類をかく。
- 22日(土) 午前中、学校。午後、家。
- 23日(日) 家で中学校へ送る書類をかく。
- 24日(月) 10時～●中、午後、奈良へ。
- 25日(火) 春休み、家にいます。
- 26日(水) たぶん、家。
- 27日(木) 学校。(1日中)・・・かたづけをするつもり (日刊6の1)
- 28日(金) 東京
- 29日(土) 東京 } まじめに勉強です
- 30日(日) 東京
- 31日(月) 学校(8:30～夜) 会議
- 4月 1日(火) ↑
- 2日(水) ↑
- 3日(木) ↑
- 4日(金) ↓
- 5日(土) 学校(式の準備)
- 6日(日) 家
- 7日(月) 始業式
- 8日(火) 入学式

休命中、予定がない限り、遊びのお誘いあいます。ほくの家に来るときは事前に電話して下さい。07430-~~1111~~。みてがみ、E 63-~~1111~~ 山田那智那村 ~~1111~~

また、あした

# 卒業おめでとう

奈々子に

吉野弘

赤い<sup>りんご</sup>林檎の<sup>ほお</sup>頬をして  
眠っている奈々子

お前のお母さんの頬の赤さは  
よくくり

奈々子の頬にいつか  
ひびくお母さんの  
つややかな頬は 少し青ざめた  
お父さんにも ちよと  
酸っぱい思いが小えた

とうとう  
唐突だが  
奈々子

※唐突... とつぜん

お父さんはお前に  
多く期待しないだろう

ひびか  
ほかからの期待に<sup>た</sup>応えようとして  
どんなに  
自分を<sup>た</sup>敵目にしてしょうか  
お父さんは はっきり  
知っていましたから

お父さんが  
お前にあげたいものは  
健康と  
自分を愛する心だ

自分を愛することをやめるとき  
ひとは  
他人を愛することをやめ  
世界を見失ってしまう

自分があるとき  
他人があり  
世界がある

お父さんにも

お母さんにも  
酸っぱい苦勞が小えた

苦勞は  
今は  
お前にはあげられない

お前にあげたいものは  
香りのよい健康と  
かちとるにむづかしく  
はぐくむにむづかしい  
自分を愛する心だ



## 卒業おめでとう

卒業式の日には、「奈々子に」の詩を贈ろうと、もうずいぶん前から決めていました。そして、とうとう今日をむかえました。11日この日をむかえてみると、きみたちを送り出すさびしさがかんたんとなり、大きくなってきています。眠っている我が娘のかたわらに立ちながら、我が子への思いを書いた吉野弘さんにも似た思いで、この詩を贈ります。

時代はますます困難になり、自分の生きていく先が見えにくくなってきています。きみたちは、これからの人生の中で、これまでの12年以上に多くの、そしてむづかしい問題に出会うことでしょう。だけど、決して自分を見失わないで下さい。「ひとが/ひとでなくなるのは/自分を愛することをやめるときだ/自分を愛することをやめるとき/ひとは/他人を愛することをやめ/世界を見失ってしまう/自分があるとき/他人があり/世界がある」と書かれた吉野弘さんの詩の言葉をかみしめたいと思います。そして、「香りのよい健康と/かちとるにむづかしく/はぐくむにむづかしい/自分を愛する心」を育てていきたいと思うのです。

卒業に寄せるほくの思いは、文集「仲間」や「丹州春秋」や「日刊6の1」No.9に書きました。「仲間」の中に、吉野源三郎さんの「いつの日かかならず」（ながの最後におる詩）をのせました。

にれむかれむが、カいっばいに  
のびのびと生きてゆける世の中



日刊6の1 No.10の3 これで25枚めです。またない印刷をよく読んでくれました。感謝感謝

だれもかれも「生まれて来てよかった」  
 と思えるような世の中  
 じぶんを大切にすることが  
 同時に ひとを大切にすることになる世の中  
 きみたちが、自分をしっかりと見つめて生きていくことの目標が、この詩のこの言葉の中にあるのだと思います。  
 ある人は、「人生とは学ぶことである」と言いました。一体何を学ぶのでしょうか。それは吉野さんが言う様な世の中を来させるためには、自分は何をしたらよいのかという事です。学ぶことの本質がここにあります。それは単に頭の中で理解するというのではなくて、行動の学問でなくてはなりません。  
 これから、いくつものいくつものカベにぶちあたることでしょう。きみたちは、そのたびに試されつづけ、またえられ、成長していくのです。明日から、ぼくときみたちは、ひとりの人間と人間です。ひとりひとりのなかまの成長を、ひとりの人間として、見守りつづけたいと思います。1つの日か、となりにならび立ち、そして追いついていく日を楽しみにしながら……

卒業アルバムは 5月11日(日)にわたします。  
 1時に●へ来て下さい。最初の同窓会もかねて……。  
予定変更時はメールします。

お別れの歌です。

## 乾杯 (長洲剛「乾杯」一部詞をかいています)

かたいきずななに思いを寄せて 語りつくせぬ青春の日々  
 時には傷つき時には喜び 肩をたたきあったあの日  
 あれからどれくらい経ったのだろう  
 沈む夕日をいくつかぞえたらう  
 ひとりごとの友はいまでもきみの心の中にいますか

乾杯  
 今、きみは人生の大きな、大きな舞台に立ち  
 はるか長い道のりを歩きはじめた  
 きみにしあわせあれ

4月6日(日)  
 奈良公園へ  
 天理行き9時10分集合  
 弁当、お水、おやつ、お土産物など

卒業証書を手にしたみんなを 今こうして目を細めてる  
 大きな喜びと少しのさみしさを 涙の言葉で慰めた  
 明日の光る体にあびひかり返らさず-そのままだけはよい  
 風に吹かれてお前に向たれても信じた道に背を向けるな

乾杯  
 今、きみは人生の大きな、大きな舞台に立ち  
 はるか長い道のりを歩きはじめた  
 きみにしあわせあれ

また、会いましょう。

日刊6の1 No.11 1986.3.22(土) 特別お掛け号です  
冊小6の1 (草尾 佳秀)

## 卒業の日の夜に

特別なんだよなあ。この日ばかりは。ぼくはもう一回のこの日をおぼえていたけれど、やっぱり今年もそうだった。  
 卒業式が終わった後、お酒を飲むのだけれど、ぼくはそれによって助けられているかもしれないのだ。夜あそくまで、飲んで、しゃべって、歌って……。ひとりになるとさびしくてやりきれないんだよ。案の定、帰りの車の中で、ぼくは谷村新司のカセットを聞きながら、はらはらと落ちる涙を止めることができなかった。特に理由なんかないのだ。でも、4年前のあの日も、2年前のあの日もやっぱりそうだった。最もうれしくて、同時に最もさびしい日だ。その1日が、またこの上もなく好きで……。教師やってよかったなあと思うときである。

桜咲く奈良公園へ 桜の開花予想 4月2日  
 とき 4月6日(日) 9時10分国鉄天理駅前に集合。  
\* 奈良までの切符買って下さい。24分にのります。  
 \* 雨天の時も、とりあらず天理駅へ。  
 もちもの 弁当、水とう、しきもの、ゴミ入れ、おやつ、お金(お水、お金は自分で前当り)、遊具のもの

◎3月27日、10時~12時の空きなとき、日刊6の1とします。日刊6の1は311ページまで掲載

## 8が7か SL(蒸気機関車)に乗りませんか

21日の新聞を読んでいると「大和路にSL再登場」という記事が出ていました。奈良県や国鉄が主催する「あなたとなら、大和路キャンペーン」の行事の一つとして、8月1日から7日までの1週間、奈良-天理-桜井-高田-王寺の40.9キロにSLが走るというのです。1日に1往復、1度に5/2人というから、7日を通じて1000人あまりしか乗れないわけです。白い煙をはきながら走るSLの姿なんて、まっと見たことも、もちろん乗ったこともないでしょうね。そこで、めったにないこの機会に(というより、今回がたぶん最後になるでしょう。国鉄の中にSLを運転できる人がいなくなりつつありまのから)乗ってみようじゃないかと思うのです。8月7日、奈良→王寺に向かうSLに乗ります。まだくわしいことは発表されていませんが、弁当つきたそう、料金は運賃+弁当代くらいになりそうです。発表と同時に申し込みをしようと思っております。一緒に乗ってみようという人は、27日に来た時に申し出て下さい。

### 「SLに乗ろう『れんだこなかま』の会」

- ・実施日 1986年8月7日。(くわしい時刻未定)
- ・会員になるには、3月27日にぼくに言って下さい。その場で会員になり切
- ・参加費 未定。
- ※くわしいことは参加希望者にべんらんします。

27日に……

数値化全盛の当世である。教員の自己評価シートや学校の自己評価が導入され、目標や成果を数値化することを求める傾向が強い。たしかに、数値化することで向上する部分はある。しかし、教育には数値化が馴染まない、あるいはできない部分もある。そして、この数値化できない部分にこそ、教育の神髄(言い方を変えると、専門職〈職人〉としての存在意義と喜び)があると、私は信じている。「熱伝導」なども数値化できないし、伝導したかどうかの証明すらできない。ここに紹介したハナシだって、教師の自己満足の世界、独りよがりの世界かもしれない。しかしまた、眉唾モノだという証明もできない。「熱伝導」は、熱を伝えようとした者と伝えられた者との関係性の中で成立する世界だ。さらに、「伝えられた者」は、その時に熱を感じるところもあるだろうし、何年もの後に振り返って感じることもある。教育とはそういうものなんだと思う。

「のびる」のクラス(1983年度卒業)に姉がいて、「れんだこ」のクラス(1985年度卒業)に妹がいたHさんは、妹が中学校に入学して半月ほど経ったころ、次の様な手紙を下さった。(第1章第4節の再掲になります)

- ……のびるのクラス、れんだこのクラス、4年間続けて本当にお世話になりました。……卒業前の10日間のプリントの1枚目を見たとき、何かホッとしたような、やっぱり草尾先生だと安心致しました。実は妹は日記も書かなかつたし、「れんだこ」も途中で切れたし、事情を知るまでの数か月間は、今度のクラスは先生も力が入らないのかなと思ったりして、物足りなさを感じていました。……そして、最後の10日間のプリント、卒業に関する文集、先生の残された文章1枚1枚に胸を打つものがあり、彼女たちの大事な思い出と、人間としての指針、先生の思いが本当に理解できるのは10数年先、自分も親となり、子どもも同じような年頃になってからかも知れません。今は一度読んで読み返すこともなく本箱に置かれているだけですが、火事などの時には一番に持ち出してやりたい大事なものです。